



くみやま

議会だより



いざというときのために…（プールでの着衣水泳体験）

6月定例会

議会アンケートの結果(議会改革特別委員会)……2P

意見書や条例の改正、補正予算など……6P

6人が登壇 一般質問……7P

閉会中の調査活動……14P

ホープ登場 直撃インタビュー……16P

NO. 119

平成22年8月1日号

発行:京都府 久御山町議会

議会改革特別委員会

議会改革とは…



地域主権の進展や行財政改革の推進により、議会の担う役割が一層重要となるなか、住民のみならずから信頼される議会を目指して、昨年12月の定例会で、15人の委員で構成する議会改革特別委員会を設置しました。

第1回委員会（昨年12月）では、役員の選出、第2回委員会（今年1月）では、今後の会議の運営について、第3回委員会（2月）では、具体的な検討項目について議論を重ねてきました。

さらに、第4回及び第5回委員会（3月）では、

「議会に関するアンケート調査」の実施や委員会の効率的な運営などを目指して、2つの作業部会を設置しました。

アンケートは、5月1日号の「議会だより」に折り込み、回収方法は、郵送と総合体育館など公共施設に設置した回収箱でおこないました（期限は5月20日）。

また、第6回委員会（5月）では、京都府町村議会議長会事務局長の福井均さんを講師に招き、「議会改革の必要性」について研修しました。主な内容は、地域主権改革3法案や議会を取り巻く状況、議会の責任や議会改革の活性化についてでした。

とりわけ議会改革・活性化については、「議論する議会」「開かれた議会」「住民参加の議会運営」「議会の調査・政策立案機能の強化」など多岐にわたって報告がありました。研修後、アンケート回収の中間報告と、作業部会AとBに分かれて今後検討を進めていくことについて確認しました。

第7回委員会（6月）では、アンケート結果を報告するとともに、作業

始動する久御山町議会

議会の開催や質問方法から、議員の政治倫理や定数など…総検討始める

部会AとBに分かれて、項目ごとの検討を始めました。

作業部会Aでは、一般質問における一問一答方式、対面方式の導入や代表質問の制度化など「議会と町長・執行部との関係について」、また、作業部会Bでは、「政治倫理について」や「議員定数および報酬について」などの検討を始めたところだ。

町議会の活動の内容について

知ってる

47%

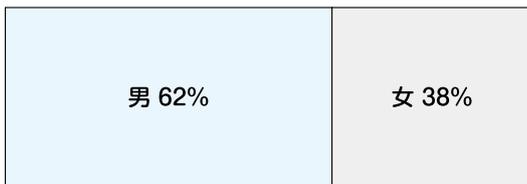
36%

知らない

議会アンケート結果報告

◆実施日 平成22年5月

問1 あなたの性別をお聞かせください。



◆回収結果

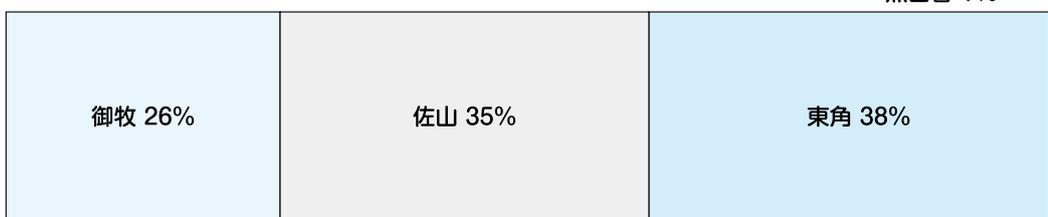
配布総数 6,960枚
回答者数 172人
回答率 2.5%

※回答率は2.5%と低い結果になりましたが、他市町でも同様の傾向がみられます。

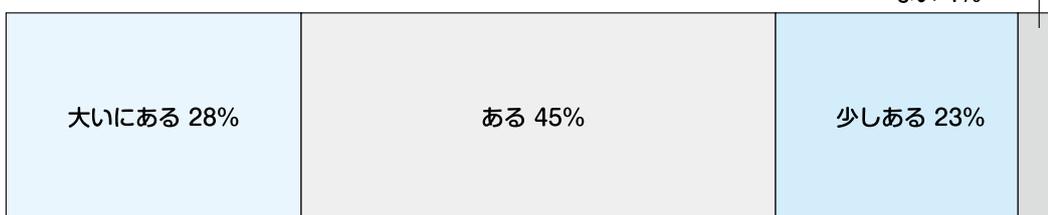
問2 あなたの年齢をお聞かせください。



問3 あなたの住まいの地域についてお聞かせください。



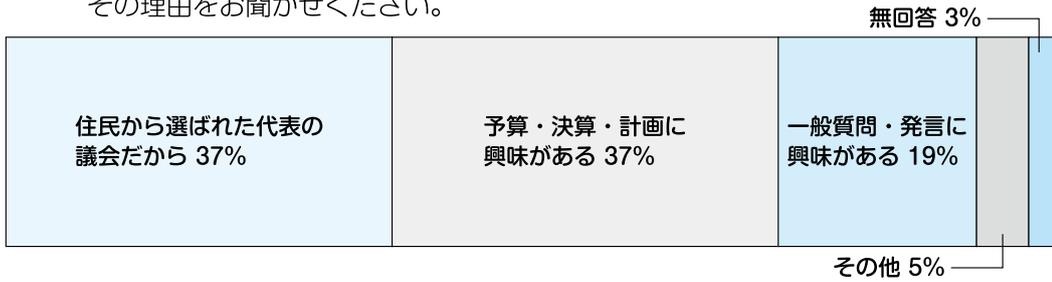
問4 町議会に関心がありますか。



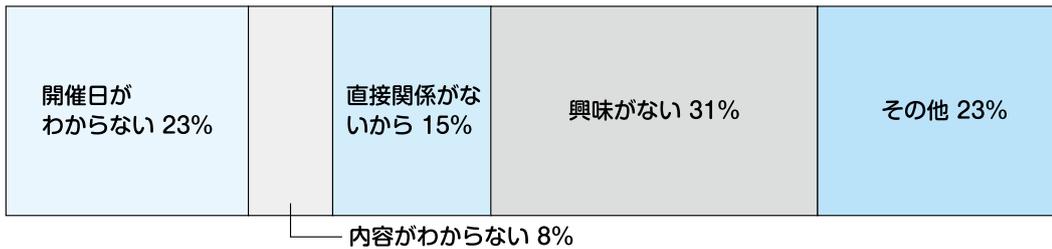
アンケートは、「議会だより」に折込み、全町に6,960枚を配布しました。回答は172通（回答率2.5%）。回答者は男性が62%、女性は38%でした。年齢では50歳代から70歳代が高く、40歳代以下が5%未満と少ない結果でした。

議会への関心では、「大いにある」「ある」「少しある」をあわせると、96%と高いことがわかります。住民にわかりやすい議会は、部会Aで検討を進めています。

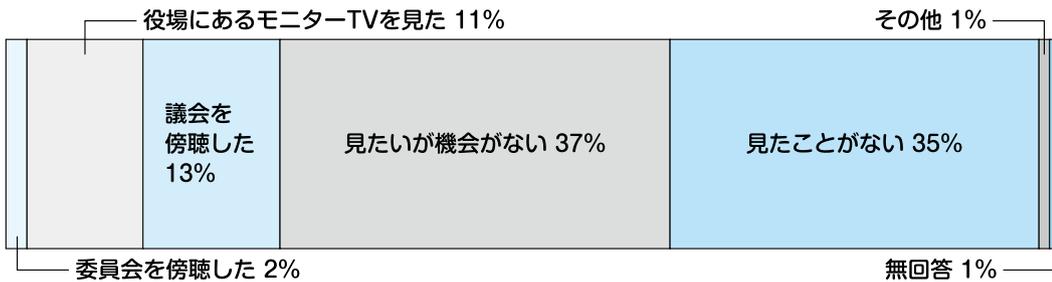
問5 問4で「大いにある」「ある」「少しある」と答えていただいた方におたずねします。その理由をお聞かせください。



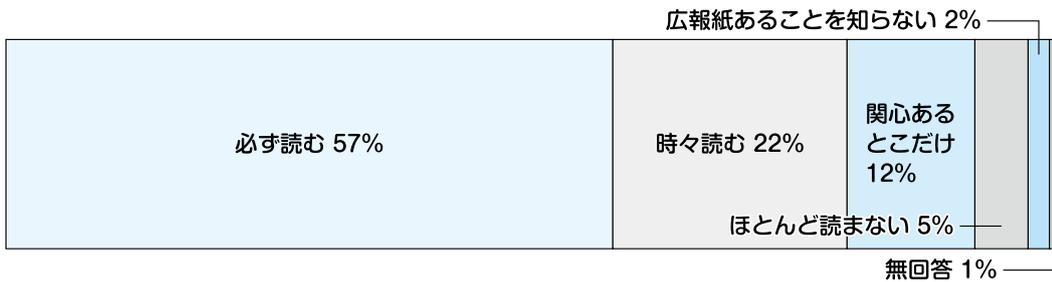
問6 問4で「ない」と答えていただいた方にお聞きます。その理由をお聞かせください。



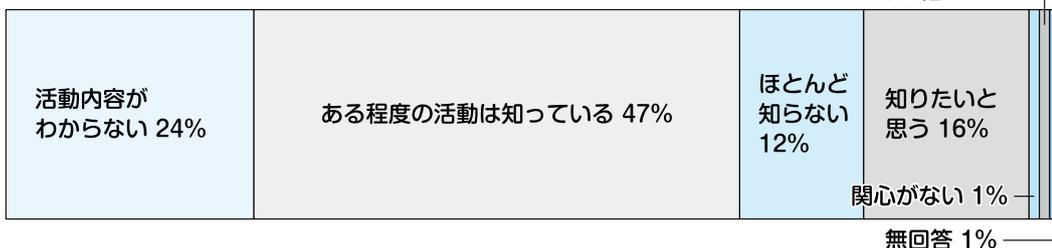
問7 議会の公開や傍聴についておたずねします。



問8 議会広報紙『くみやま議会だより』についておたずねします。



問9 現在の町議会についておたずねします。



議会に関心がある理由では、「住民から選ばれた代表」「町予算・決算・計画に関心がある」が各37%を占めており、住民の町行政への関心の高さがうかがえます。

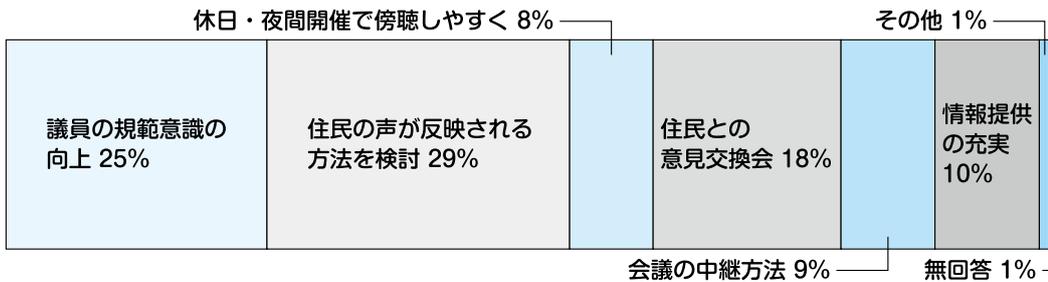
議会の公開や傍聴については、「議会を見た機会がない」「見たことがない」の合計が72%と高い比率となっています。議会の公開性のあり方を検討するうえでも貴重な結果です。

町議会について、「ある程度知っている」は47%と最も高いが、一方で、「活動内容がわからない」「知らない」「36%となり、「知りたいと思う」を含めると50%を超えます。

問10 あなたの意見や、住民の声が議会や町政に反映されていると思われませんか。



問11 今後の議会活動についておたずねします。



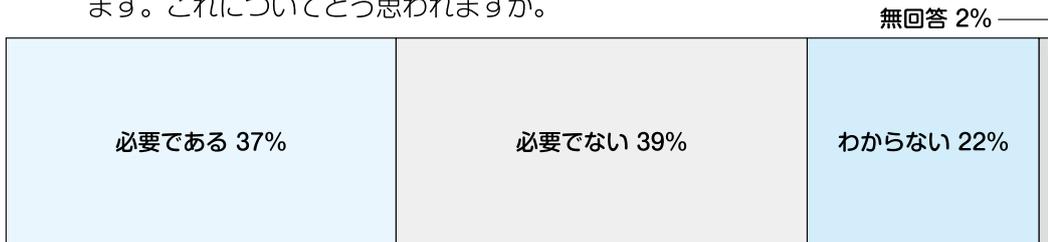
問12 議員定数についておたずねします。
(過去20人から削減し、現在16人。本町の場合、法律では最大22人となっています)



問13 現在の議会議員の報酬(税込)は、議長39万5千円、副議長32万5千円、各委員長29万5千円、議員29万円です。これについてどう思われますか。



問14 本町では、議員や会派などが調査研究など活動をおこなうための費用を支給する制度として「政務調査費」があります。月額5千円(無会派3千円)が支給されています。これについてどう思われますか。



「住民の声が、議会や町政に反映されているか」について、47%が「大いにある」「少し反映」ですが、「反映されてない」が32%あることも軽視できません。

今後の議会活動については、29%が「住民の声が反映される方法を検討する」ことで、その次が、「議員の規範意識の向上」でした。



アンケートへのご協力ありがとうございました

◆議会改革特別委員会◆

6月定例会

8日~25日

6月定例会は、6月8日～25日までの18日間の会期中に開かれ、町長から提出された人事案件をはじめ、一般会計補正予算など13件について、いずれも原案のとおり可決しました。

また、広報編集特別委員会から提出された決議を原案のとおり可決し、議員から提出された意見書は否決されました。

一般質問は、6人の議員が登壇し、当面する課題について考えをいただきました。

広報特別委員会への名称変更と調査項目の追加

議会の広報をはじめ、充実強化をはかるため、住民の皆様方のご意見等 広報編集特別委員会からをお聞きし、議会活動の 決議が提出され、本会議

人権擁護委員に

奥村征彦氏 (再任)

人権擁護委員の奥村征彦氏(佐山・66歳)の任期満了(9月30日)にともない、引き続き同氏を町から法務省に推薦することに、議会として適任と決定しました。任期は3年です。

【全員賛成】

において、「広報特別委員会」に名称を改めるとともに、議会の広聴活動

所得税法第56条の廃止を 求める意見書は否決

「生計を一にする配偶者その他の家族が事業に従事したとき、対価の支払いが必要経費に算入しないものとする」条項

審議した議案等

■平成22年度久御山町一般会計補正予算(第1号) 719万円を追加し、総額7億8519万円とする。

【主な歳入】

- ①介護基盤緊急整備等特別対策事業府補助金 319万円
- ②財政調整基金繰入金 316万円
- ③産地確立対策事業委託手数料 84万円

【主な歳出】

- ①公会堂等新增改築補助金 50万円

を調査項目に追加することを決定しました。

の廃止を求める意見書を国に提出するため、議員提出されましたが、採決の結果、賛成2人反対13人で否決されました。

②小規模福祉施設スプリンクラー設置費補助金 319万円

③公園の維持管理 100万円

【可決 全員賛成】

職員の子供休業等に関する条例及び職員の勤務時間、休暇等に関する条例一部改正

【可決 全員賛成】

職員団体のための職員の行為の制限の特例に関する条例一部改正

【可決 全員賛成】

火災予防条例一部改正

【可決 全員賛成】
町税条例一部改正の専決処分

【承認 賛成13人・反対2人】
都市計画税条例一部改正の専決処分

【承認 全員賛成】
国民健康保険条例一部改正の専決処分

の平準化に向けた改正をおこなったもの。
①軽減措置の改正(減額賦課の応益割合基準の緩和)
②課税限度額の改正(介護納付金の課税限度額10万円は現行どおり)
③非自発的失業者の保険税負担の軽減

平成21年度 補正予算のあらまし (専決処分)

会計名	補正額	補正後の額	採決結果
一般会計	▲1億2275万円	78億5159万円	承認 全員賛成
特別会計	国民健康保険	▲1609万円	承認 全員賛成
	老人保険	▲1227万円	承認 全員賛成
	公共下水道事業	▲3498万円	承認 全員賛成
	介護保険	▲460万円	承認 全員賛成

※万円未満四捨五入 (▲=減額)

いっぱん質問

6人の議員が町政をただす



議 場

6月定例会の一般質問は、6月21日におこなわれ、6人の議員が町政の当面する課題について、町長の考えをただしました。

今回の質問の項目は下記のとおりで、その主な質問・答弁の要旨を掲載しています。

質 問 者 (質 問 順)

岩田 芳一 議員 (8ページ) ①福祉行政：高齢者の救急医療情報の共有 ②総務行政：AEDの貸し出し等	中井 孝紀 議員 (9ページ) ①行政サービス：役場の土日開庁 ②教育行政：今後の教育の方向性
三宅 美子 議員 (10ページ) ①男女共同参画：その成果と課題 ：庁内での政策立案過程における女性の参加 ：職場相談体制の充実 ②介護予防事業：ミニデイサービス ③町内巡回バス：利用しやすいコミュニティバスのあり方	巽 悦子 議員 (11ページ) ①高齢者福祉：認知症高齢者とその家族への支援 ②第4次行政改革大綱：基本姿勢 ：職員数の適正化、住民サービス、補助金など ③保健予防：ワクチン接種の効果と住民への情報提供 ：ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンの接種
北村 政雄 議員 (12ページ) ①福祉行政：介護保険制度の施策 ：10年間の総括と今後の課題 ：町が独自におこなう高齢者対策 ②保健予防：人間ドックの助成事業 ：人間ドックにかかる今年度の事業と今後の展望	澤野 好夫 議員 (13ページ) ①道路行政：第二京阪道路の出入口設置 ②バス輸送の充実：京都市バスの町内乗り入れ

次の定例会は、9月です。

議会の傍聴を歓迎します。

議会事務局 ☎ 075 (631) 9996 (直通)
☎ 0774 (45) 0105 (直通)
FAX 075 (632) 3000 (直通)



岩田 芳一 議員

Q 高齢者のために

救急医療情報キットの利用は

A 実施は考えていないが、

関係機関との情報共有に努める

質問

将来人口の推計で、高齢者の人口が平成26年度には4409人と推測されており、高齢者が救急搬送される機会も増えるのではないかとと思われる。そこで、本町においても高齢者の持病や服薬、本人情報などを記した救急医療情報キットを利用し、救急医療情報の連携のための事業に取り組み考えはないか。

長寿健康課長

救急医療情報の共有については、他市町で救急医療情報キットや命のバトン、見守り筒という名称で先行的に取り組みがなされ、住民と救急隊員の双方から、地域の見守り活動や災害時の救助活動に非常に有効であると言われている。現在のところ、本町独自に同様の施策を実施していくことは考えていない。

いが、社会福祉協議会では、同内容の緊急連絡カードを実施しており、同協議会や消防本部と連携を緊密にし、住民福祉

Q AED 貸し出しの考えと夜間のための設置は

A 貸し出しは検討し、夜間設置を積極的に働きかける

質問

町内で活動する諸団体へ、AEDを貸し出しする事業に取り組む考えはないか。

今後の設置場所として、夜間の緊急時において使用できるように、コンビニエンスストアに設置依頼をしては。

総務課長

AEDの重要性は強く感じている。AEDを必要とする行事等は、往々にして重なることも予想される。希望される団体すべてに貸し出しすることは難しいと考えている。現在、町の施設では、役場のほか小・中学校、

の向上につなげたい。今後とも、ひとり暮らしの高齢者の方が安心して地域で暮らせるよう、関係機関との情報共有に努める。

討したい。コンビニエンスストアなど、多くの人が訪れる場所でのAEDの必要性は大変大きい。町内には、多くの24時間営業のコンビニエンスストアがあり、できる限り各事業者が店舗に設置されることが好ましいとも考えている。今後、町としても各事業所に対して、AEDの設置を積極的に働きかけ、住民の皆さんが安心して体制づくりに努めていきたい。

体育館、ゆうホール、荒見苑などにAEDを設置しているが、まだ公共施設の中でも設置していない施設もあり、今後は、未設置の公共施設への配置を優先するなかで、自治会、またスポーツ行事への貸し出しが可能なAEDの配置についても検討



役場1階に設置されているAED(自動体外式除細動器)



中井 孝紀 議員

Q 土日を開庁する

時期にきたのではないか

A 開庁を望む声25%、

現状のまま44%だった

質問

現在社会において、生活習慣の多様化や、共働き世帯の増加などにより、平日にしか開いていない役場へ行くには支障のある方が年々増えている。土日開庁は時代の流れであり、住民サービスを充実させ、より一層身近で便利な役場にすべきである。

実施には多くの課題もあるが、まず試行的に月

一回の土日開庁や、平日業務の延長などを実施し、実態を把握することが必要な時期にきているのではないか。

総務課長

町政モニター制度によるアンケートを実施したが、土日の開庁を望む声が25%、現状のままであり44%であった。経費については、土日

に一階の窓口を最低限の職員を配置した場合でも、

1日約22万円の勤務手当てと光熱水費やシステムの保守・管理経費などが必要となる。また、平日に2時間の時間延長をおこなった場合5万円程度の時間外勤務手当が必要となる。

休日の開庁については、費用に見合うだけの利便性の向上につながるのか、行政改革で事務事業の見直しに取り組んでいるなかで、費用対効果も含め今後の課題として引き続き検討したい。



行政サービスの充実が望まれる(役場1階の窓口)

Q 教育の中長期的な方向性は

A 子どもの確実な希望進路の

実現をめざす

質問

今年度から学力低下を

もたらした『ゆとり教育』が見直され、新しい学習

指導要領に基づく教育が始まっている。

久御山町の教育については、今日まで15歳の希望進路の実現を見据えて、幼・保・小・中・高との連携による一貫的な教育を、基本的な方向性として推進してこられた。

また、町独自の少人数学級を実施するなど、きめ細やかな指導が可能となる学力向上対策を講じてこられた。

現実の社会は厳しい競争が待ち受けており、子どもたちには確かな学力と、生きる力を身につけ、勝ち抜いてもらわなければならない。

教育上の諸課題もまだまだ抱える中で、今後の久御山町の教育について中長期的な方向性をどのように定め、具体的に実行しようと考えているのか。

教育長

中3卒業生の希望進路の実現は、子どもたちの夢の実現の第一歩ととらえて、学力を充実させ、豊かな人間性を育むこと

を目指して教育を進めてきた。

今後5年間についての構想は、久御山町を大学のキャンパスになぞらえ、町内の企業、農業、伝統文化など様々な分野で活躍する人に学び、協力を得て久御山中学を中心に協働して教育活動を進めることを基本目標とする。

そうすることで学力の向上をはかり、豊かな人間性・社会性を培い、子どもたちの希望進路の実現がより確実なものになると考えている。

今後、各学校のコミュニケーションを深め、地域が一つになり久御山の子供を育てるといふ絆が生まれ、教育の町・久御山が一つの学園のような姿になることを思い描いている。

学校については、各校のスーパーバイザーの指導によって教師力向上による授業改善を進めているが、全所的に活用し教育を一層強化することに力を入れている。



三宅 美子 議員

長寿健康課長

本事業は、高齢者の方が住みなれた地域で、いつまでも元気に自立した日常生活ができることを目的とした事業である。

平成21年度は延べ参加人数1489人、延べ活動回数115回で、徐々に増加している。

本活動は、地域の高齢者の方の实情を知るよい機会であり、昨年度は看護師延べ109人、保健師延べ28人が健康相談や健康教育で関わっている。

には、公共施設の利用など相談に応じたい。

民生部長

保健師の派遣については、他の事業と重ならないよう調整し、少なくとも年1回は派遣したい。

委員としてはあるが、町の重要な介護予防事業であり、今後は社協と十分協議・調整して、町のかかわりを深めていきたい。

安全で気持ちよい利用と
車いすでの利用を便利に

接客マナーは今後も指導し、障害者の利用できるバスを尋ねる

質問

鉄軌道のない本町住民にとって、バスは重要な移動手段である。中でも、町の「のってこバス」は高齢者などには時間がかかって重要な足であるし、狭いバスの中はコミュニティの場になっている。しかし、一部ではあるが乗務員の運転や対応の悪さが不愉快な思いをさせている。運行開始当時から、担当課も委託業者に伝えていくと承知しているが改善はない。町が運行するバスなので、住民が安全に気持ちよく利用するために、委託業者とも連携を強める必要があると思うが答弁を求める。

都市計画課長

のってこバス乗務員の接客マナーについては、運行開始当初からしばしば苦情が寄せられており、町としても改善を求めてきたが、現在も、一部接客マナーの悪い運転手が見受けられることも事実であり、今後もバス会社に指導していきたい。

事業建設部長

障害者の方が、スムーズに利用いただけるバスについては、そういった機能をもつバスがあるかどうか、早速バス会社に尋ねたい。

また、車いす利用者の乗降について、運転手の

介護
予防

ミニデイサービスへの
町の関与は

町の重要な事業であり、
今後はかかわりを深めたい

質問

町の介護予防事業であるミニデイサービスは、社会福祉協議会に委託し地域福祉協会の協力のもと、いきいきサロンとして実施されているが、実施当初に比較して町の保健師、看護師などの派遣も、バスの貸し出しも後退している。委託しているとはいえ、町の重要な介護予防事業であると認識をしているが、町はどのような内容を事業を求めて委託をしているのか。

そして、町はどのような内容の事業を求めて委託をしているのか。また、本来なら全町民を対象にする事業だが、未開催や地域福祉会未設置の地域も個別の事情もある。全住民を対象とするために、町も社協とも協議し、協力をする必要があるのではないか答弁を求める。

未開催の地域については、本事業の趣旨を十分理解していただいたうえで開催することが望ましく、社協の活動をできる限り支援したい。集会所のない自治会



地域福祉会と協力して実施されている
ミニデイサービス事業(いきいきサロン)



異 悦子 議員

Q 認知症高齢者と家族支援を

A 一貫して支援できる体制構築したい

質問

本町での認知症高齢者の発症状況、介護サービス利用状況は。

長寿健康課長

認知症と診断されている方は約80人、何らかの認知症状のある方は約300人。また、介護保険の地域密着型サービスとして認知症対応型共同生活介護事業所、小規模多機能型介護事業所に対応している。在宅サービスでは、デイサービスやショートステイ等で対応している。

質問

実態をお聞きした家族の方は、「いまは家族の忍耐力で持ちこたえている。いつ爆発するかかわからない」など不安が隠せない状況だ。

長岡京市では、介護保険外で訪問、見守りなどの支援策をおこなっている。

民生部長

本町での、相談体制の確立や入所可能な施設設置を求める。相談体制は、非常に大事と考えている。認知症対応型通所介護施設の整

備を促進し、サービスの量と質を確保し、一貫して支援できる体制を構築したい。

時間相談体制も含め、町社協と協議したいし、第6次高齢者福祉計画策定でも議論したい。

Q ヒブ(Hib)肺炎球菌ワクチン接種を公費で

A 補助は、国の動き注視したい

質問

ワクチン接種の正しい効果と、住民への情報提供について問う。

長寿健康課長

母子手帳発行時には、予防接種手帳を同時に発行している。各種乳幼児健診では、ワクチン予防接種時期を説明。

就学児童は、教育委員会を通じ、学校からチラシを配布。また広報紙やホームページで、安全性・効果など、今後も必要な情報の周知をしたい。

質問

ヒブ感染症による細菌性髄膜炎は、年間1000人以上が発症。早期発



ワクチン接種で細菌性髄膜炎予防を訴えるパンフ

見が難しく、迅速な治療を施しても治療の困難化が指摘されている。また、ヒブと同様に、肺炎球菌も髄膜炎を引き起こす恐ろしい細菌で、高齢者や基礎疾患の方の重篤化が問題になっている。

長寿健康課長

任意接種のため、お金がなければ、あきらめてしまう親や高齢者もいる。

両ワクチンとも、品薄状態で複雑な予防接種スケジュールに組み込むのは難しいと聞いている。課題整理と、国の予防接種法に基づく位置づけが先決。補助については、国の動向に注視したい。

Q 国保会計への繰り入れ抑制が

A 柔軟な対応が必要と考える

質問

第4次行革は、経営的感覚に基づいたコスト意識をもつとしている。

第3次から第4次への整理では、国保会計への一般会計からの繰り入れは、「好ましくない」とか、適正な保険料の見直しの検討とあわせ、繰り入れの「抑制につなげていく」とある。

企画財政課長

本来、特別会計は独立採算制のため、繰り入れは最小限に抑制することで、一般会計の健全化をはかっていくもの。だが、国民健康保険会計の趣旨を堅持し、柔軟な対応が必要と考える。

しかし、全国の多くの自治体でも実施されてい



北村 政雄 議員

ついでの考えは。

長寿健康課長

介護保険制度は、現在、

第4期の介護

保険事業計画

の期間となっ

ており、在宅

サービスを中

心とした急速

なサービス利

用の拡大をは

じめ、新予防

給付の導入、

地域包括支援

センターや地

域密着型サー

ビスの創設を

経て、現在

では、医療保

険などともに

、安心して

た老後の生活

を支える制

度として、定

着してきた

と総括してい

る。

これまでいろ

いろな改

定があり、本

町の場合は、

その都度、柔

Q 人間ドックの費用助成 経過と展望は

施設整備については、分に聞きながら進めてい、次期の計画策定のなかで、きたいと思つてい。関係者や住民の意見を十

A 受診者は毎年増加

住民の健康増進に取り組む

質問

今日、医療費が全国で30兆円を上回り、各自治体の国保会計も非常に厳しい財政状況にあるなか、人間ドックの費用助成事業は大きな役割を果たしている。本町でも、積極的に取り組んでいるが、今日までの経過と事業効果、今後の展望はどうか。

国保医療課長

は195人が受診され、一定の成果があると思つている。今年度は、215人の募集に対して229人の申し込みがあり、やむなく抽選をすることとなったが、希望に添えない14人の方には、特定健康診査を勧めるなど未受診の年とならないよう理解を求めている。

人間ドック・脳ドック

今後、関係団体にお

の助成事業は、疾病予防と早期治療をはかり、健康管理の自覚を深める目的で、健診費用の7割を助成している。受診者は毎年増えており、昨年度

しており、この予防や介護に重点をおかなければならないとの思いをしており、今年度、認知症対策型通所施設の公募を計画している。

制の構築が緊急の課題となつており、介護ニーズの課題の把握や地域に合ったサービス内容、体

給者の立場にたった運営が必要だと思つたが、本町での10年間の総括と、改善の必要があると思つているのか聞きたい。

また、町の将来を考えると、最も核となる施設が必要ではないかと思つた。とりわけ、包括的に認知症対策をとらえる必要がある、本町の特別養護施設でも多くの待機者がおられ、大きな課題であると思つた。設置に

介護保険の運用は、多くの部分で市町村に委ねられていることから、受

Q 介護保険制度

10年間の総括と将来の考えは

A 老後を支える制度として定着 意見を聞き、次期計画を策定

質問

介護保険制度が施行され10年が経過し、基本的な部分は発足当時と変わらないが、介護メニュー

などの詳細な点は、かなり違ったものになつてき

ていると思われ、介護予防の名のもとに、給付が

制限されている事態がなかったのだろうか。

介護保険の運用は、多くの部分で市町村に委ね

られていることから、受

給者の立場にたった運営

が必要だと思つたが、本

町での10年間の総括と、改

善の必要があると思つて

いるのか聞きたい。

また、町の将来を考えると、最も核となる施設が必要ではないかと思つた。とりわけ、包括的に認知症対策をとらえる必要がある、本町の特別養護施設でも多くの待機者がおられ、大きな課題であると思つた。設置に



澤野 好夫 議員

久御山ジャンクション周辺に 出入口の設置は

A 国や関係機関に

強く要望していきたい

質問

第二京阪道路の久御山ジャンクション周辺に、京都方面への進入口がなく、また、京都市から帰ってきてでもジャンクション周辺ではおりられず、不便さは否定できない。ジャンクションの周辺では、新市街地が整備され、「クロスピアくみやま」が建設されたが、この周辺において、出入口の設置についての考え方を

を聞く。

建設整備課長

新たなインターチェンジの設置については、すでに国土交通省京都国道事務所と西日本高速道路株式会社京都工務事務所に要望をおこなっている。第二京阪道路の京都方面への出入口設置は、計画段階において、利用車両による町内道路の混雑やそれによる環境の懸念などに加え、インター

チェンジ間の距離などにより、町内に設置されなかった。

この設置には、構造的な課題や高速道路の管理運営が民営化されたことなどによる採算性など、実現にはハードルが非常に高いことも事実であるが、引き続き、関係機関等を実現に向けての検討をお願いし、協議していきたいと考えている。

町長

第二京阪道路の協議のスタート段階で、通過道

路としてはならないとの思いはあったが、地域の環境を守るために中入れ方式を要望し、結果として、インターチェンジの設置は難しいことを仕方なく理解したとの思いを持つている。しかし、インターチェンジがないことは大変不便であり、今後の町の発展に必要と認識しており、国や関係機関に強く要望していきたいと思っ



久御山ジャンクション周辺に出入口の設置が望まれる

京都市バスの町内乗り入れは

A バスターミナルの有効利用と、

利用者の利便性の向上を検討

質問

鉄軌道がない本町では、町内の各地域に行くのに車かバスに頼らざるをえない状況にあり、民間のバスルートを補って、町で「のってこバス」を走らせているが、さらにバス交通網の強化が望まれている。

今回、バスロータリーや停留所を整備し、そこを起点にさまざまな取り組みがされているが、ひとつの提案として、京都市バスの町への乗り入れを考へてはどうか。もちろん京都市との協議も必要なことだが、まちの駅を起点に京都駅や四条河原町へと行く案だが、両者の条件を整えれば可能性が高いと思われるが、町としてどう考へるのか。

都市計画課長

財政状況が極めて厳し



バスターミナルへ京都市バスの乗り入れを

いなかで、京都市交通局においても財政健全化が強く求められていると聞き及んでいる。まちの駅から横大路を結ぶ路線の実現については、新規車両を増やせないなか、他路線の輸送力を削って充てることとなり、採算性を高く見込める路線といえないことなどから、難しい状況にある。今後、新規路線バスの町内乗り入れを含めてバスターミナルの有効利用や、バス利用者の利便性の向上に向けて検討していきたい。

育ちの芽のばす 生きる力培う支援

民生教育常任委員会

閉会中事務調査報告

5月11日(火)

〈母子・療育教室〉

本町の母子保健対策は、健康教育や健康診断、健康相談などによって障害

の早期発見・早期予防を進めています。なかでも、

昨年度から町独自で実施している母子療育教室は、1歳8カ月児健診や

3歳児健診時、また保育所、幼稚園で発見された、「落ち着きがない」「言葉

が遅い」「団体行動ができない」など、発達に問題を抱える子どもと親を

対象に、小集団での遊びを通して発達を支援しています。

また親への支援は、子どもの特性を正しく理解

してもらい、子どもと接することで、子どもの自



遊びの準備をするスタッフ

立を助長し、スムーズに学校生活へとつなげることにあります。

夢くむルーム(町母子療育教室)は、週4

日、午前と午後の2回教室を開いています。対象は、概ね1歳8カ月から

就学前まで、教室の定員

は48人、入室時期は年間3クール制のため、原則は各クールの開始の時期となります。

スタッフは、室長他9

人。内容は、①障害や発達段階に応じた療育プログラム②学習会や個人面

談を通じ、子どもの障害や発達について、親の理解を深め、子どもへの適

切なかかわりを学ぶ機会

の提供③就園・就学への移行支援などです。

成果としては、①子どもが安心して育ちの芽を伸ばしている②小学校への移行がスムーズになっ

た③親が子どもの発達障害への理解を深めている

—などでした。

〈特別支援教育〉

特別支援教育の目的は、発達障害を含む障害ある

幼児・児童・生徒が、障害による学習や生活の困難の克服をはかりながら、

個性や能力を伸ばす努力、生涯にわたって心豊かな生きる力を培うための必要な指導・援助をおこなうことです。

これらの教育活動を保障するため、特別支援学校や特別支援学級、通級指導教室、通常学級で、障害の状態に応じた、指導内容・方法がおこなわれています。

本町の特別支援教育は、①幼児期には加配保育士・教諭の配置と就学

相談②小・中学校期には、特別支援学級、通級指導

教室、通常学級と就学相談③小・中・高校校期で

は、八幡支援学校を中心とした支援学校と就学相談をおこなっています。

町内3小学校には、特別支援学級と通級指導教室、中学校には特別支援

教室があり、支援するための保育士、教諭、補助員体制は、町と府費合

せ、保育所は14人、幼稚園は8人、小学校は13人、

中学校は7人、適応指導教室は3人です。

また、本町から支援学校への通学児童生徒の状況についても説明を受けました。

巨椋池干拓地 農地防災事業

事業建設常任委員会

閉会中事務調査報告

5月12日(水)

今回の事務調査は、現

在、京都府山城土地改良

事務所において実施されている国営附帯府営農地

防災事業・巨椋池地区の推進状況について現地調査しました。

現地では、京都府山城土地改良事務所長から事業概要の説明を受けた後、

前川橋で2期地区工事、三ツ橋で1工区工事、続いて観世橋と、工事内容の説明を受けるなど各施設等を視察しました。

この事業は、京都市、宇治市、久御山町にまた

がる府南部最大の広がりをもつ農業地域である巨椋池地域において、近年

の都市化の進展により洪水流入量が増加し、農地

等の湛水被害が生じてい

たため、国営事業により

流末にある排水機場を全面改修し、併せて、その

排水機能を十分發揮させるために、接続する幹線

排水路の整備を府営事業によりおこない、自然環境との調和にも配慮しながら府民参画協働で進めている事業で、総事業費

は約61億2千万円にもなります。

この事業の全体像は、1期が平成16年度から22年度でブロックマット護

岸の水路工を、幹線2740mを実施。2期が平成19年度から25年度で土

留矢板、ブロック積護岸等の水路工を幹線等1120m。3期が平成21年

度から27年度でブロック積護岸の水路工を、承水溝3号域で3395坪を実施される予定で、現在の進捗率は、1期が81・8%、2期19・6%、3期2・1%となっております。既に完了部分の現地調査をおこない、さらなる整備が進められているところと見られます。

また、府民と一緒に自然環境を守るための「淀みづくり大作戦」などをはじめ、周辺住民と一緒に計画づくりに取り組み、今後のきれいな水辺保



前川の改修工事

全（維持管理）へつなげていくため、「巨椋水辺づくりプロジェクト」や「前川リニューアルワークスシヨップ」を通じて府民協働を進めています。

洪水時の干拓農地及びその周辺農地に発生する湛水被害を解消するためには、速やかに排水機場へ流出水を導水する必要

があり、作物生産効果、維持管理費節減効果、災害防止効果など、農地防災の安心・安全を向上させるための取り組みが進められています。

久御山町における集中豪雨対策

総務消防常任委員会

閉会中事務調査報告

5月13日(木)

当委員会は、担当課から風水害や集中豪雨に関する対策・体制・計画等について説明を受けたあと、冠水や水防に関する3カ所の地域を視察しました。

久御山町の内水排除対策において、本町は地形

上の高低によって「上段」、「中段」、「下段」の3つの流域に区別され、上段では久御山排水機場と佐山排水機場、中・下段では巨椋池排水機場があり、それぞれ規定の流入水位に達すればポンプが稼働し、排水がおこなわれます。しかし、集中豪雨の場合、排水機場に排水が到達する前に、短時間で処理しきれず都市型洪水

が発生することが危惧されています。国や府は、それら水位の監視として、観測所のデータや監視カメラの映像を、インターネットを通じて公表するとともに、水防団待機や氾濫注意を発表されているとのことです。

昨年の集中豪雨や台風による本町災害警戒本部の予備配備、動員体制については、昨年6～10月の間に、災害対策本部1号動員をはじめ計5回の予備配備・動員等があり、被害状況は、町道等の冠水、木津川河川敷運動広場の冠水、農作物・農業施設等の被害があったとのことと併せて集中豪雨が予測される場合の

職員動員体制について、注意報時には16人、警報時には46人の動員体制をとる旨の説明を受けました。

「要配慮者計画」においては、災害時、障害者や寝たきりの高齢者、介護を必要とする病人等、必要な情報を的確に把握し、安全な場所に避難していただくため、担当各課等が保有するデータを要配慮者情報と位置づけ、要配慮者台帳として管理し、有事の際には災害対策本部から自主防災会等へ伝達されることと、

災害時要配慮者総数は、現在、町全体で397人との報告がありました。現地視察の佐山小学校西側 大内都市下水路は、一昨年6月の集中豪雨（時間雨量58・5mm）によって道路が冠水し、近隣民家の床下浸水の被害が発生したとのことでした。

宇治川における堤防強化工事箇所では、右岸の大橋辺地区堤防強化工事、

左岸の宇治川堤防天端強化工事、両岸の樹林整理工事を視察しました。相島 東池地域では、標高が低いため冠水の頻度が高く、近年では2年に1度の割合で冠水しているとの報告を受けました。

委員からは、各河川のゲート開閉等の手順や、要配慮者数の実数把握、佐山小学校西側大内都市下水路の改修計画の有無、昨年6月の町道冠水箇所の原因把握について、などの質疑がありました。



宇治川の堤防強化工事の調査



ホープ登場⑧
直撃インタビュー

議長席は身が引きしまります



第3回久御山町子ども議会で議長役をつとめた
山下 祐介くん
久御山中中学校3年

ホープ登場⑧は、2月11日に開かれた第3回久御山町子ども議会で、議長役をつとめた山下祐介くんです。議長役を選んだ理由や実際にやってみた感想、また、自分が将来やりたいことなどについて、直撃インタビューしました。

意見を言うのは苦手

子ども議会では、町内の小中学生16人が1日議員となり、日頃の疑問や関心事について町政をたてました。

質問は、「雨でも雪の日でも遊べる屋根付き公園」「継続的に平和を学習できる機会」「学校体育館への扇風機設置」等々で、内容も教育長の講評にあつたように、「みなさんの純真な心を受け止めないといけない」と感じさせるものばかりでした。さて、議場では、15人の議員の質問と町行政の答弁のやりとりを進行していくのが議長の重要な任務です。

「議長役を選んだのは」「意見を言うのが苦手、



開会前に説明を受ける山下くん

どちらかというと言司会進行が得意なので」と静かな口調で話す山下くん。ところが、議長をやることになったものの、「できるやらか」「多分できるやろう」の葛藤もありました。「希望して議長になったのだから」と自分にいい聞かせ、誰かに議員役をしてもらうでもなく、家に帰ってから、議事進行のシナリオを何度も読み返し、流れをつかみました。

ピアノ発表会の経験が

傍聴者からも、「落ちていた」と好評だったので、「頭の中が真っ白に」ということにはありませんでしたか」と聞くと、「そうでもありませんでした。6歳から習ってるピアノ発表会での体験があるからだと思ふ」の言葉が返ってきました。

失敗恐れず未来へ飛翔

「身が引きしまる思いがしました」は、議長席に座った時の印象です。山下くんは、議長役をやったことで、議会の様子が少しわかったといいます。

例えば、「そんなふうには答えるんか」とか、平和学習では、「自分やったら：学校とかでやると答えたのに：」など、緊張どころか余裕たっぷり生徒会と卓球部に席を置く山下くんも、高校受験を控えた中学3年生。「将来の夢は議員ですか」と聞くと、「しよつちゅうやると、ちよつとキツイ！」と前置きし、「IT関連に興味がある」といいます。夢を追う未来の社会人、失敗を恐れず未来へ飛翔！

編集後記

7月の国政の将来をはかる重要な参議院選挙以上に、国民にはインパクトを与えた「明暗」なニュースがありました。

「明」は、サッカーワールドカップでの選手団の活躍と、歡喜する国民。「暗」は、国技である角界の不祥事問題。

さて今号の「明」なニュースは、ホープ登場⑧、「身が引きしまる思い」をしながら議長席に座り、大役を果たした山下祐介くんの記事です。ご一読を。



広報特別委員会

- 委員長 水見 正王
- 副委員長 樋口 房次
- 委員 信貴 康孝
- 委員 巽 悦子
- 委員 戸川 和子
- 委員 林 勉

